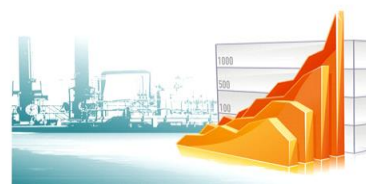


ぎふ経済レポート



令和6年9月分
岐阜県商工労働部

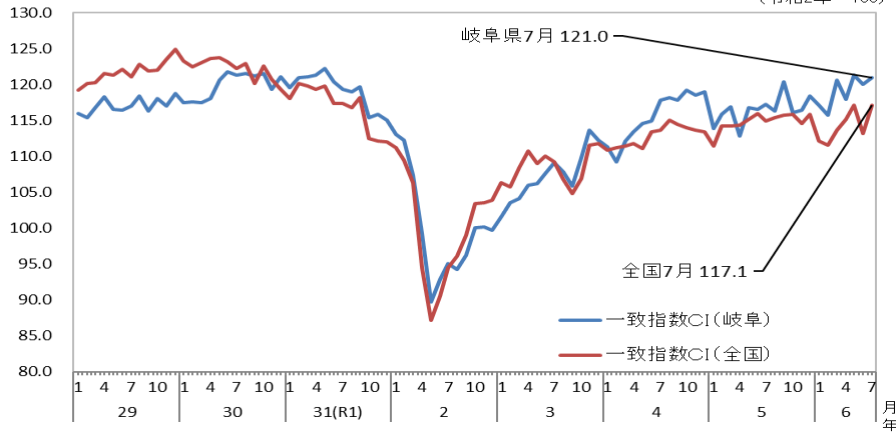
※企業等へのヒアリングは9月24日～26日を中心に実施し、10月24日時点で作成。

景気動向

○7月の景気動向指数(一致指数)は、121.0
で前月比1.0ポイント上昇となった。
○8月の県内中小企業の景況感は、▲20.0で
前月比6.0ポイント上昇となった。

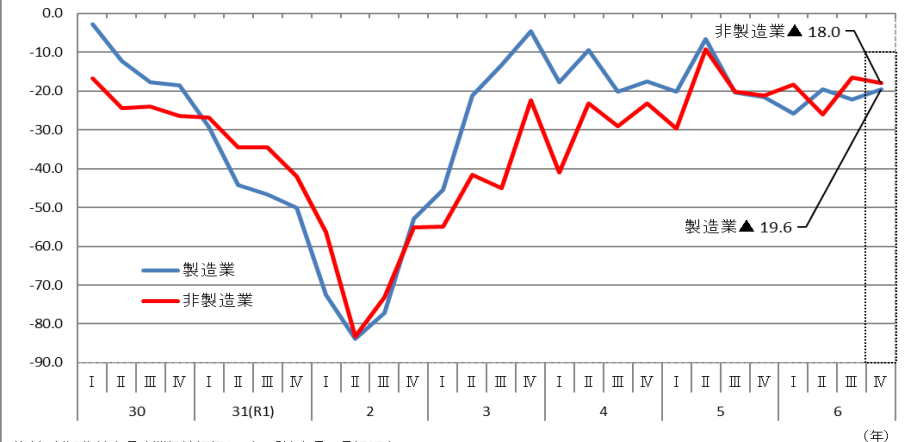
○10-12月期の景況DI見通しは、製造業で前
期比2.5ポイント上昇、非製造業で同▲1.4ポ
イントとなった。売上高DI見通しは、製造業で前
期比▲8.3ポイント、非製造業で同▲7.0ポ
イントとなった。

岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移 (令和2年=100)



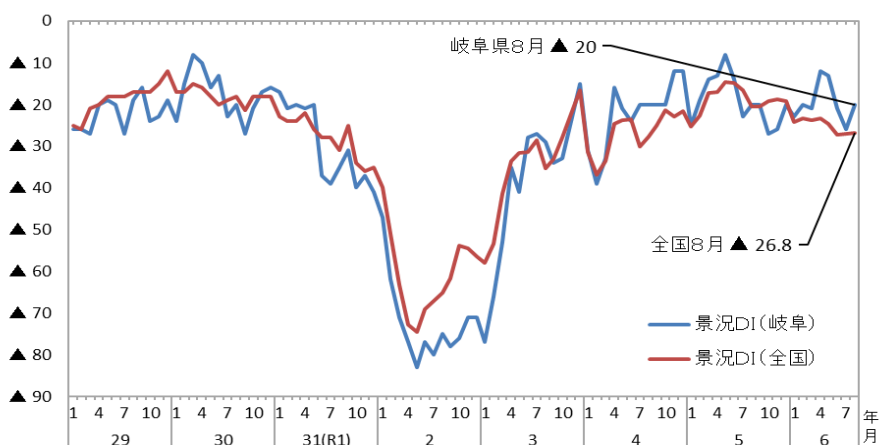
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



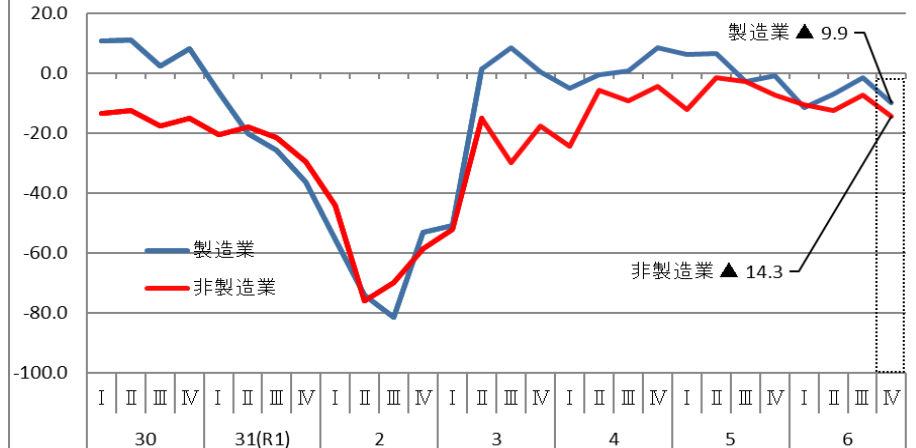
資料:(公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」、全国中小企業団体中央会「中小企業月次景況調査」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



資料:(公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

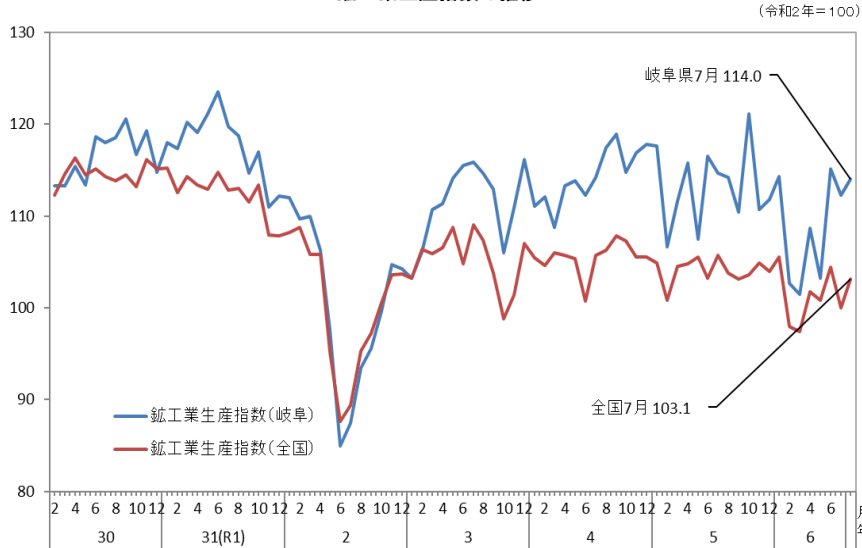
製造業

○7月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、114.0で前月比1.5%上昇となった。

○産業別の前月比では、電気機械、窯業・土石、はん用、プラスチック製品工業、非鉄金属で上昇となった。一方で、化学工業、鉄鋼業、金属製品、輸送機械で低下した。

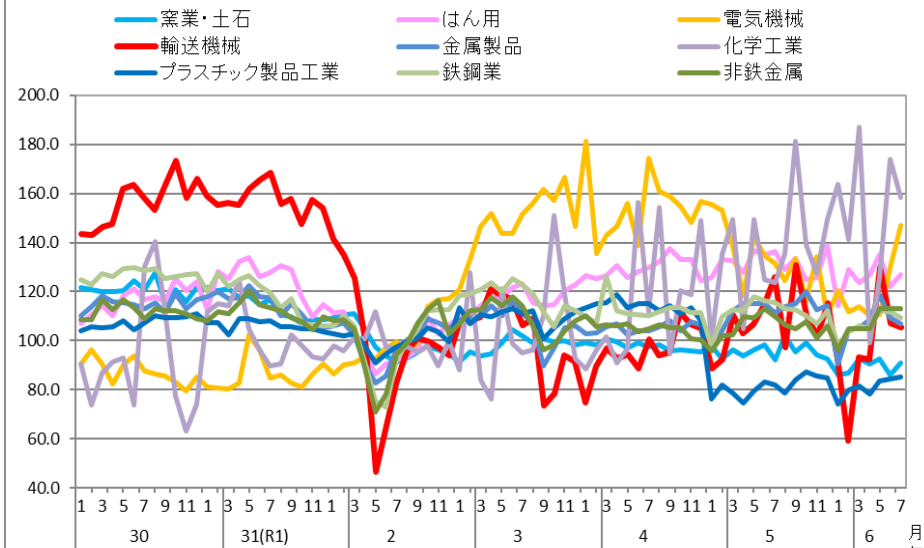
○7月の主な産業の指数は、電気機械で前月比13.3%、窯業・土石で同5.3%、はん用で同3.8%、プラスチック製品工業で同0.9%、非鉄金属で同0.2%上昇となった。一方で、化学工業で同▲9.0%、鉄鋼業で同▲2.2%、金属製品で同▲2.0%、輸送機械で同▲1.6%となった。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(令和2年=100)



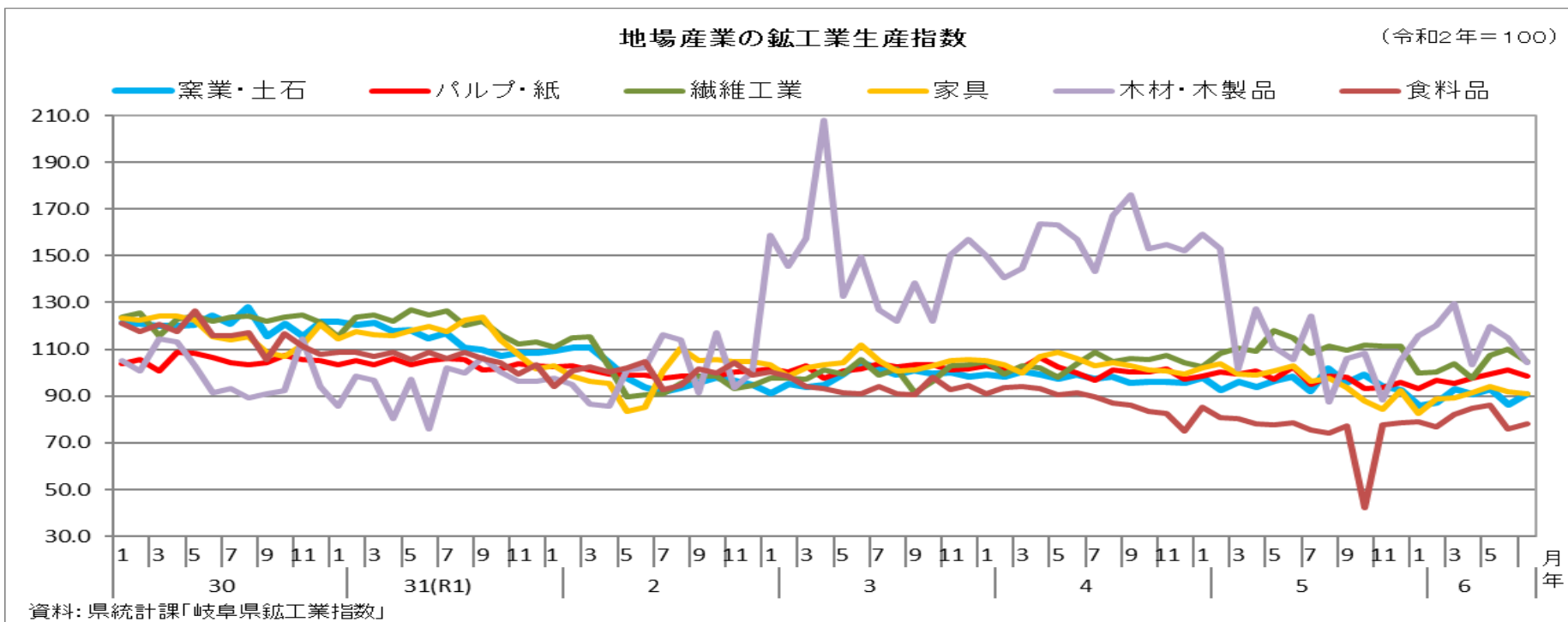
現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 8月末に発生した台風10号の影響もあり、売上は当初の計画より5%減少したが、利益率の高い部品を生産・出荷することができたため、利益は増加した。(輸送機械器具)
- ◆ 円高になっても、円高株安となり、エネルギーや原料は高止まりの状況。利益は、8月が40%減、9月以降も30%程度の減少を見込んでおり、突破口が見つからない。(生産用機械器具)
- ◆ 価格転嫁を進め数年前の1.5倍になったが、このところ、高すぎると値下げ要請されており、利益率悪化は避けられない。(はん用)

製造業-2

○7月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、窯業・土石で前月比5.3%、食料品で同2.8%上昇した一方で、木材・木製品で同▲9.1%、繊維工業で同▲4.6%、パルプ・紙で同▲2.8%、家具で同▲1.2%となった。



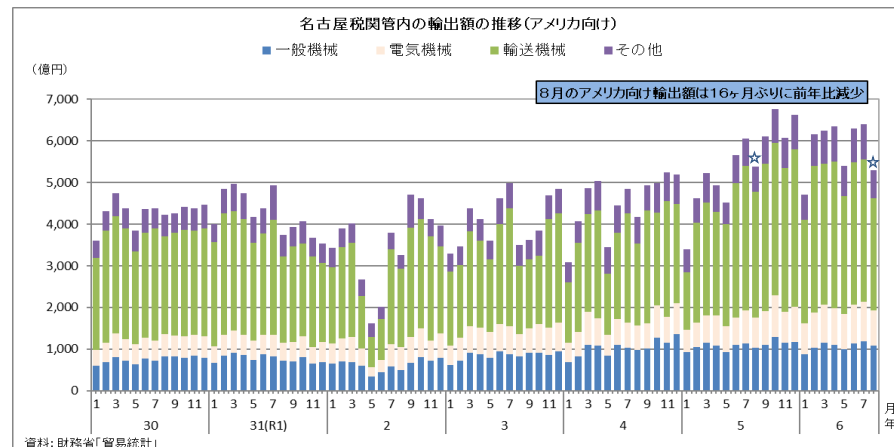
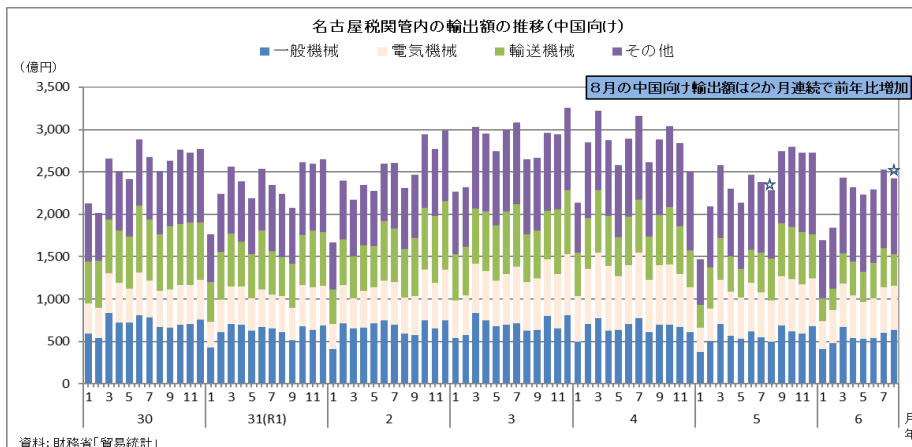
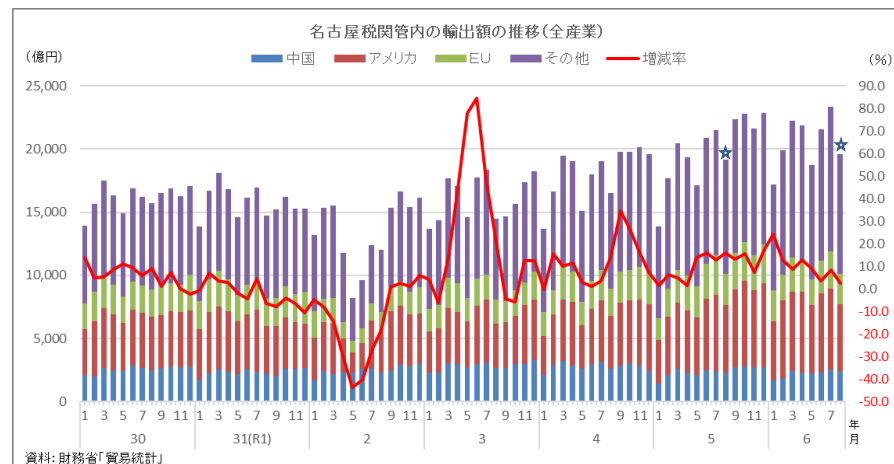
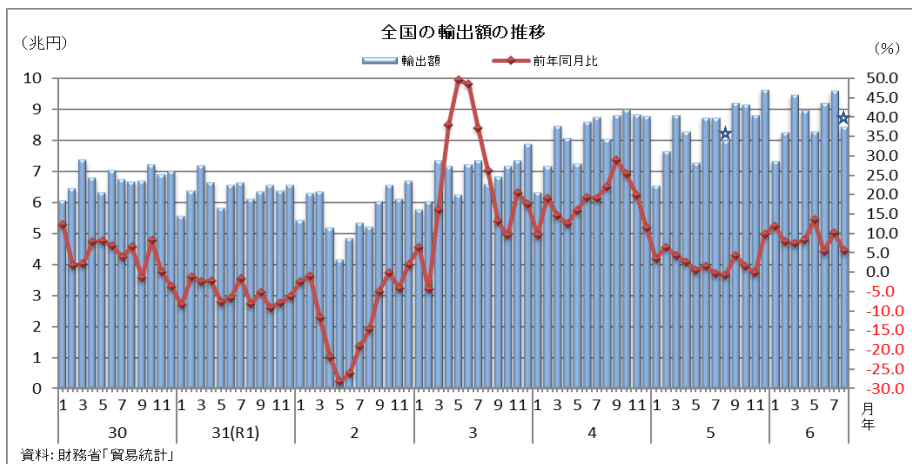
現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 不況や物価高による購入意欲の低下を背景に、高価格商品の売れ行きが厳しく、利益面でも赤字が続いている。(窯業・土石)
- ◆ 物価高、人件費高騰による値上げについて、一部の取引先から理解が得られないことから、売上、利益ともに昨年比で5%減少している。(紙)
- ◆ 輸入している米木材がウッドショックと円安により大幅に高騰、コロナ禍前と比べて平均3割近く上がっているが、価格転嫁がなかなかできておらず、売上は芳しくない。(木工)

輸 出(名古屋税関管内)

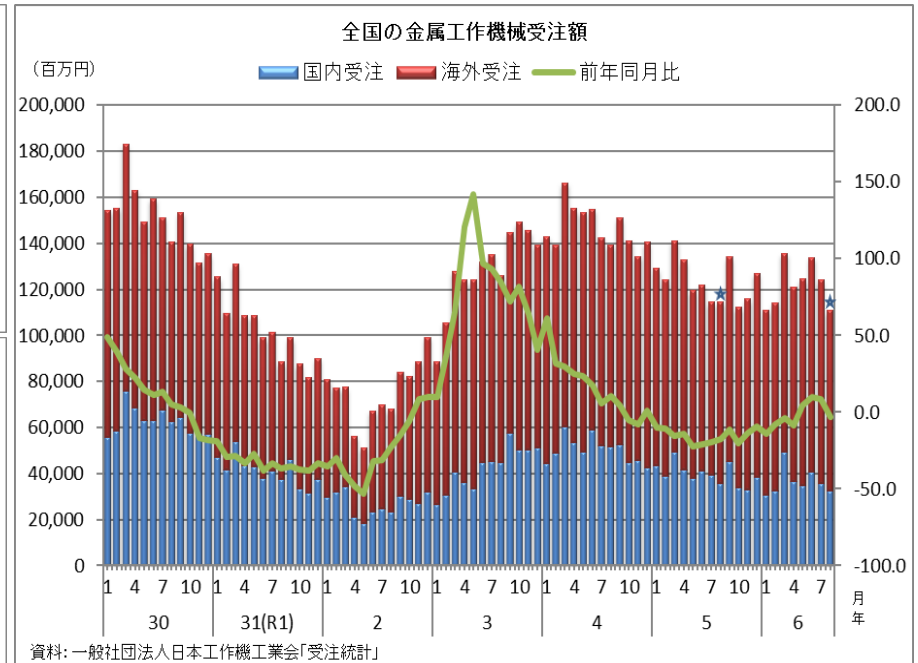
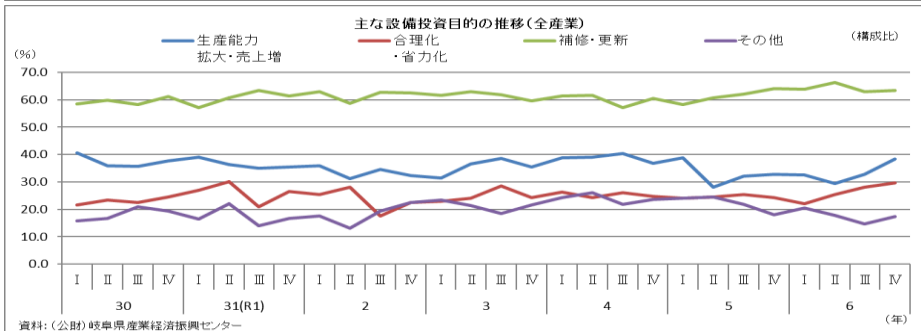
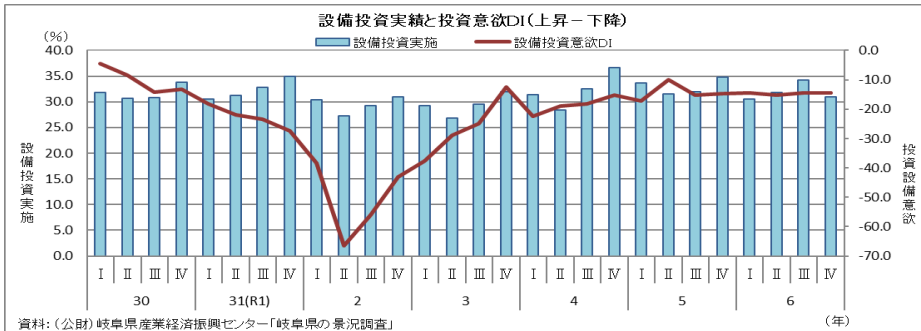
- 8月の輸出額(全国)は、8兆4,334億円の前年同月比5.5%増加となった。
- 8月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆9,592億円の前年同月比2.3%増加し、31ヶ月連続で前年同月を上回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比5.9%増加となった。その内、一般機械で同28.6%、電気機械で同6.1%増加した一方で、輸送機械で同▲25.3%となった。
- アメリカ向けは、全体で前年同月比▲1.6%となった。その内、電気機械で同14.9%、一般機械で同5.5%増加した一方で、輸送機械で同▲10.7%となった。



設備投資

○10-12月期の設備投資実施見通しは前期比▲3.4ポイント、設備投資意欲DI見通しは同▲0.1ポイントとなった。設備投資実施見通しの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比5.6ポイント、「合理化・省力化」で同1.6ポイント、「補修・更新」で同0.4ポイント上昇となった。

○8月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲3.5%と4ヶ月ぶりに前年を下回った。内訳は国内受注は同▲9.9%と24ヶ月連続で前年を下回り、海外受注は同▲0.6%と4ヶ月ぶりに前年を下回った。



現場の動き

- ◆ 今後については、特に自動車部品のティア1メーカーにおいて突然納期が延期されるといった事案が複数発生しているため、事前の情報収集力を強化し、その結果に応じて設備を導入していく方針。(輸送機械器具)
- ◆ 搬出入作業の自動化等は既存設備の改造で対応する。(非鉄金属)
- ◆ 製造の合理化(オートメーション化)を目指した設備投資を計画し、準備を進めている。(窯業・土石)
- ◆ 大きく落ち込んではいないものの、金利上昇の不安もあり、全体として慎重になっている印象。(金融機関)

原油・原材料高騰に伴う経済変動の影響について

- ◆ 多少円高に振れてきたが、原材料等の価格が全般的に上がっている。主な原材料であるアルミニウムの9月の価格は円高により値下がりに転じたが、10月には再び上昇すると見込んでいる。(輸送機械器具)
- ◆ 過度に円高が進むと原材料の輸入価格が下がり、製造コストが下がる一方で、客先の輸出品の販売利益が減少するため、サプライヤーへのコスト削減要請が厳しくなる。(生産用機械器具)
- ◆ 工場の消耗品費及び修繕費の価格が上昇している分の価格転嫁に向けて、業界各社が検討を始めた。また、長期未使用型の返却及び廃棄、保管の判断とかかる費用の請求が活発化してきた。(生産用機械器具)
- ◆ 昨年度は年間で3割ほど原材料価格が上がったが、今年度も1割ほど上がっている。(紙)

海外情勢に伴う経済変動の影響について

- ◆ 中国経済、ウクライナ情勢が安定せず、大手エアコン製造企業も相当の在庫を抱えている。(輸送機械器具)
- ◆ 中国市場にてEV関連の伸びが鈍い。取引の多い欧州メーカーもHVやガソリン車生産に投資を回している状況。(非鉄金属)

「物流2024問題」の影響について

- ◆ 当社製品の運送をしている会社から出された値上げ要請には対応している。(生産用機械器具)
- ◆ 配送の遅れが懸念されるが、納期が指定されているものについては前倒しするように対応しており、大きな問題は起きていない。(窯業・土石)
- ◆ 顧客に対してのリードタイムの案内及び、中間拠点(結節点)での貨物引き渡しを検討している。(運輸)

その他のヒアリング

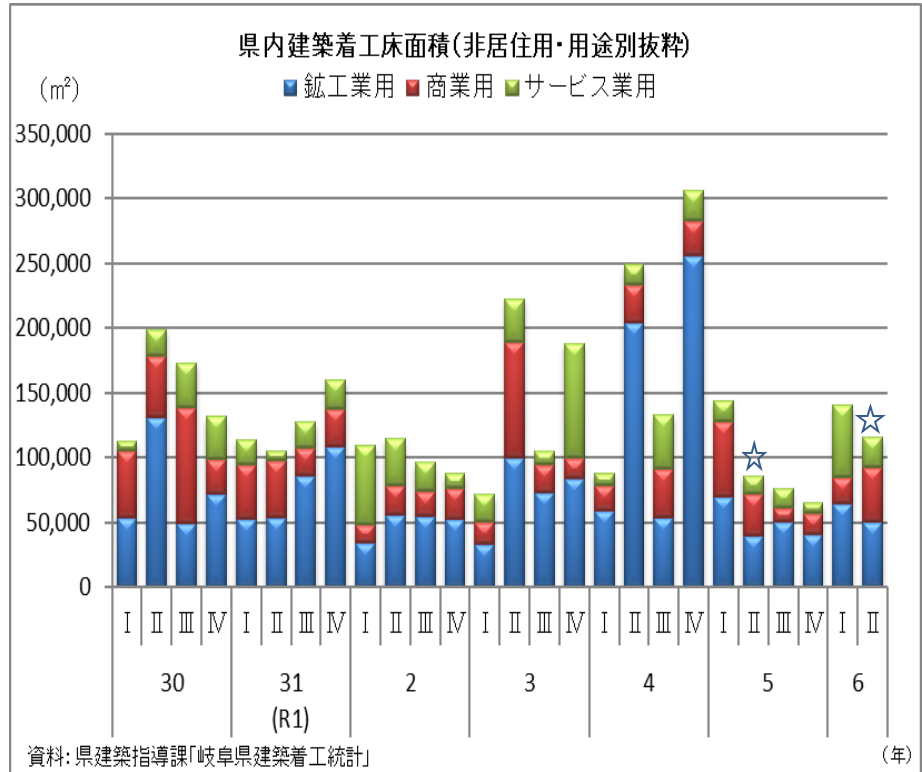
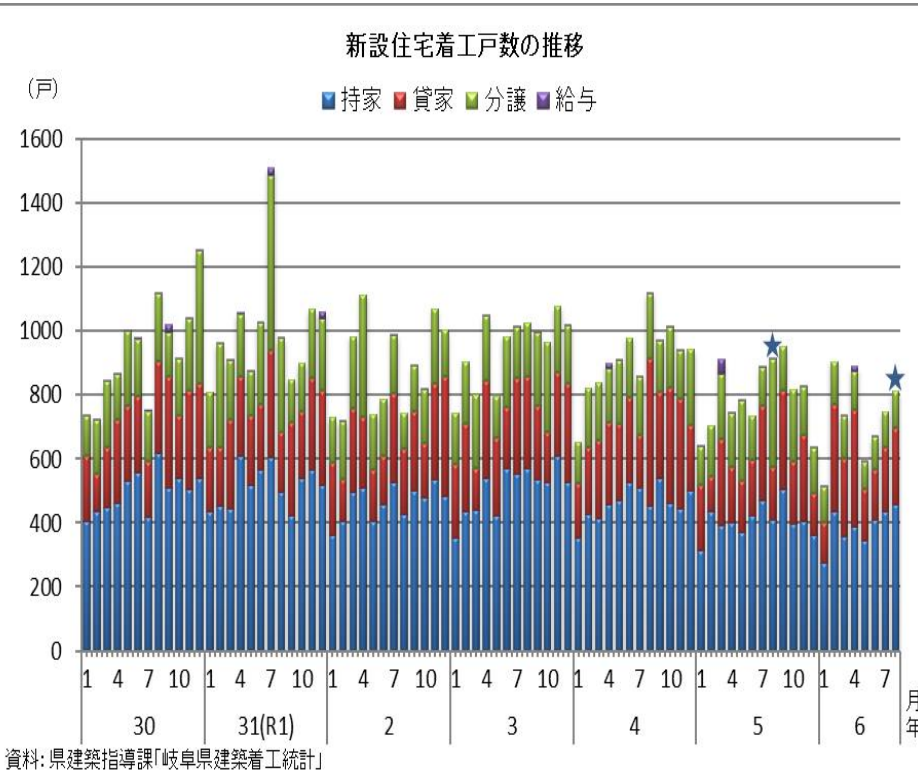
- ◆ 8月に発生した台風10号の影響について、大手自動車メーカーの工場が2日間、生産を停止したことから、売上や、労務費に若干の影響が出た。(輸送機械器具)
- ◆ 台風10号の影響について、鉄道輸送障害や顧客の工場稼働停止により、貨物量が減少した。(運輸)

住宅・建築投資

○8月の住宅着工戸数は、前年同月比▲11.0%となった。

○貸家で前年同月比44.8%、持家で同12.3%増加した一方で、分譲で同▲66.0%となった。

○4-6月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比64.4%、商業用で同30.6%、鉱工業用で同27.3%上昇となり、全体で同34.8%上昇となった。

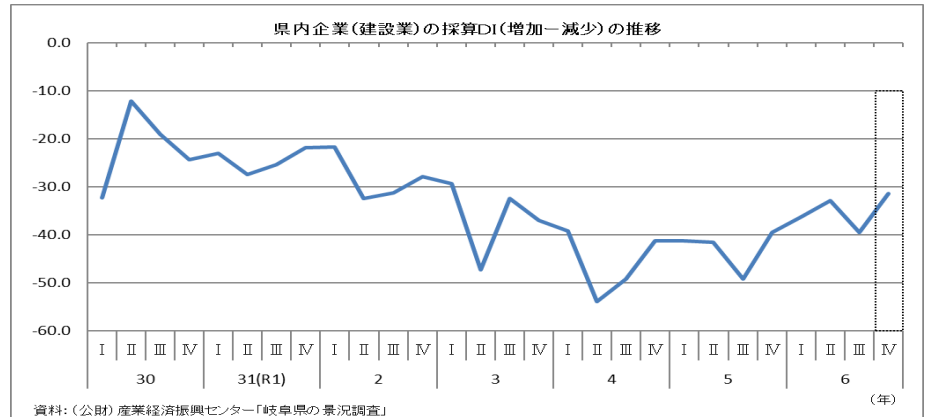
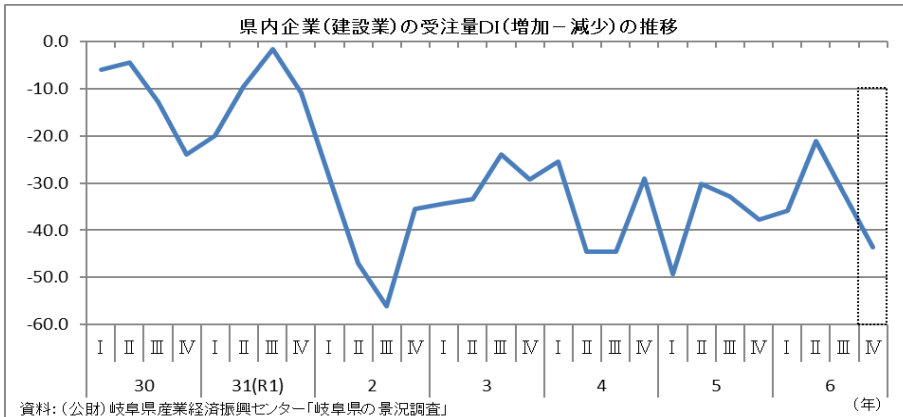
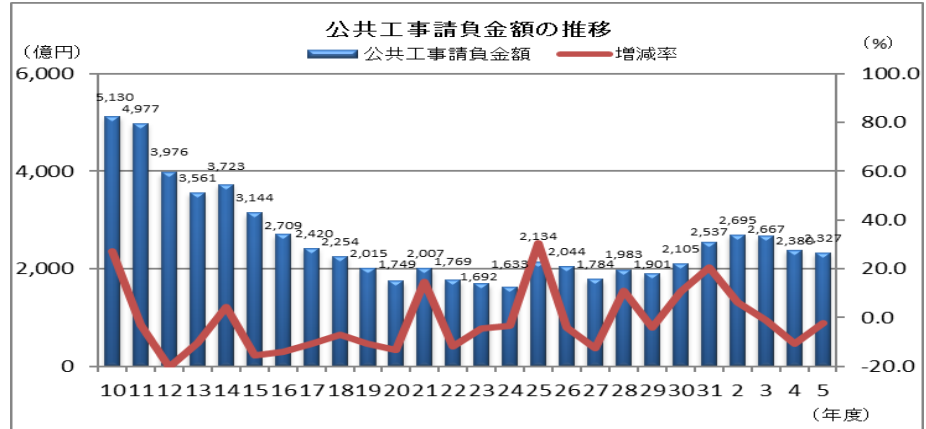
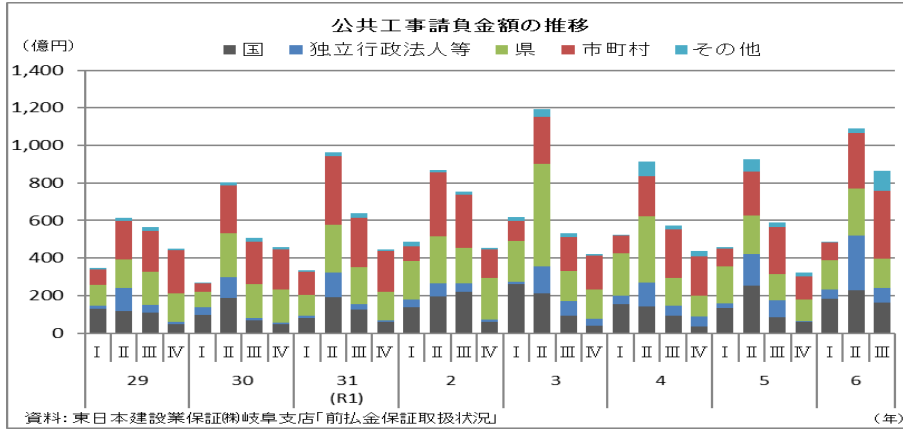


現場の動き

- ◆ 南海トラフ巨大地震がいつ来るかわからない状況の中、古い家に住む方々からの建て替え・リフォームの需要はしばらく続くと思われる。(住宅)
- ◆ どの製材工場からも景気のいい話はなく、今後も厳しい状況が続くと考えている。(卸売)
- ◆ 「予算が合わない」といって断られるケースが、以前に比べて明らかに増加している。(住宅)
- ◆ 岐阜県内の木材価格について、原木価格は下げ止まりで、製品価格は上がらない状況。(卸売)

建設工事

- 7-9月期の発注者別の公共工事請負金額は、国で前年同期比90.6%、県で同13.1%増加、独立行政法人等で同▲14.0%となり、全体で同47.5%増加となった。
- 県内建設業の10-12月期の受注量DI見通しは前期比▲11.2ポイントとなり、同採算DI実績は同8.1ポイント上昇となった。



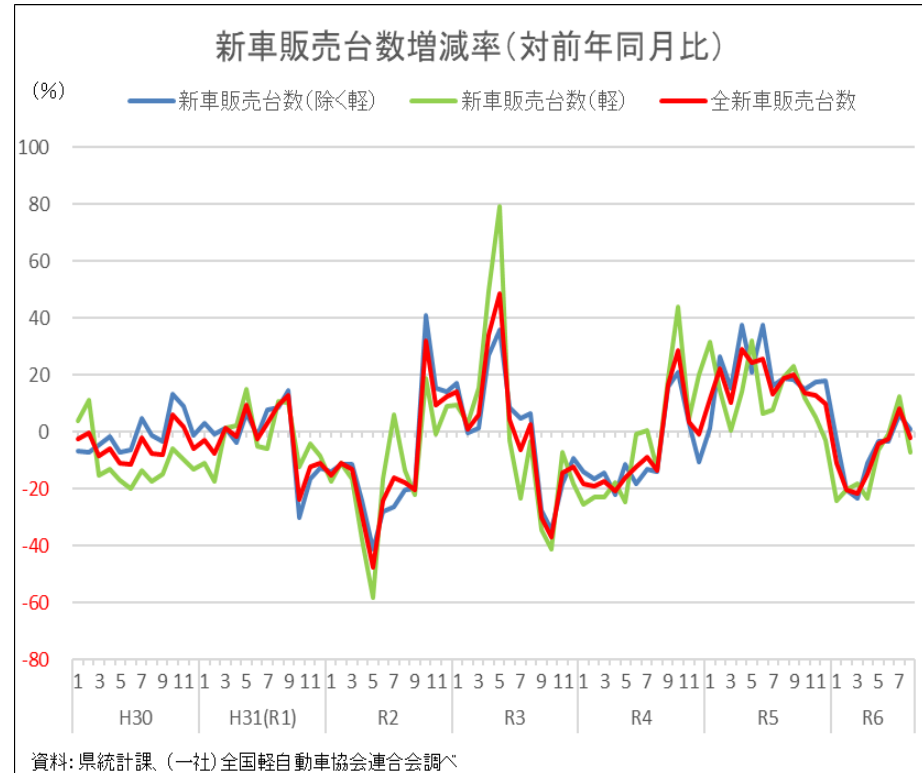
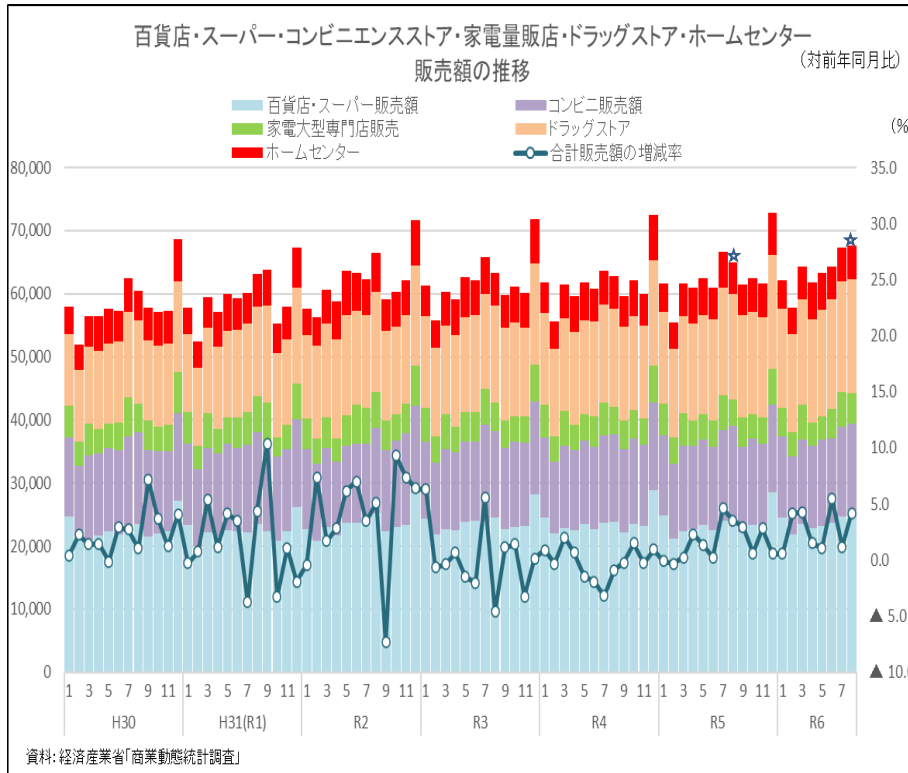
現場の動き

- ◆ 国交省関連の発注が減少傾向にあり、仕事量の確保が厳しい状況にある。
- ◆ 本年は工事発注規模が小さく、受注確保のために本数を多く受注しているため、現場技術者の不足が発生している。(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○8月は家電大型専門店が前年同月比10.2%、ホームセンターで同9.3%、ドラッグストアで同7.9%、コンビニで1.3%、百貨店・スーパーで同1.2%上昇し、全体で同4.2%上昇となった。

○8月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比1.1%増加と2ヶ月連続で前年同月を上回った。軽自動車は同▲7.3%と2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。合算では同▲1.8%と、前年同月を2ヶ月ぶりに下回った。



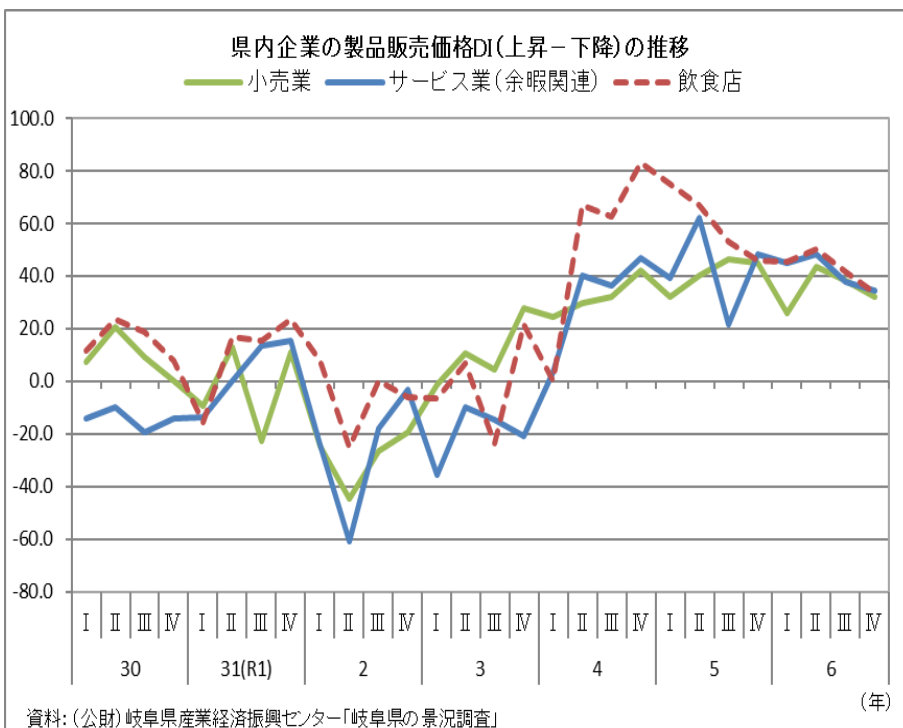
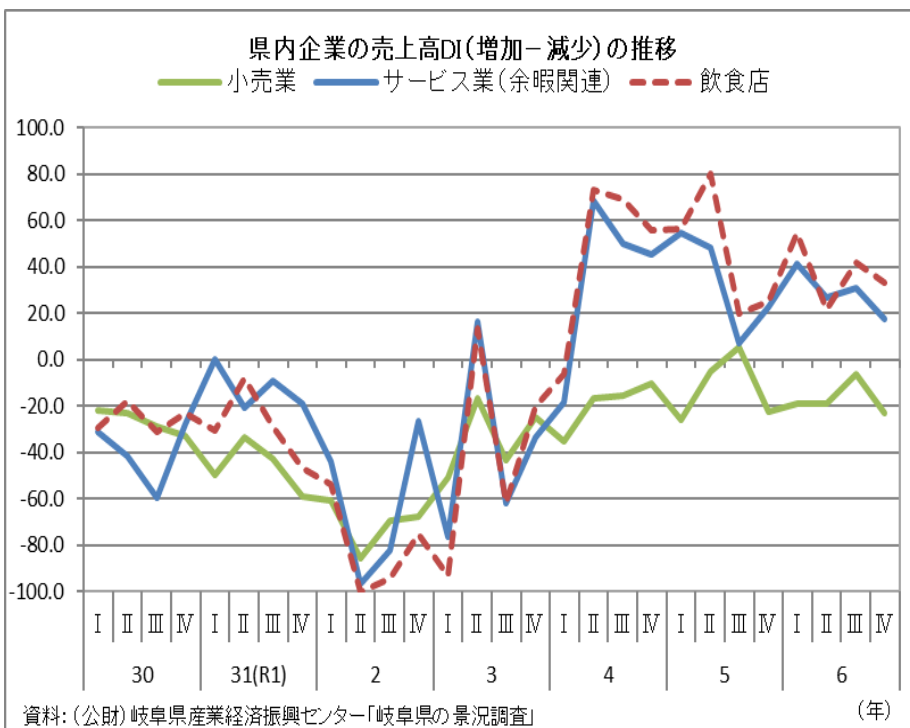
現場の動き

- ◆ 来館者数が前年同月比で減少したものの、全館売上では同比110%と増加した。
- ◆ 光熱費高騰により、収支の悪化が見込まれる。
- ◆ 台風10号により、来館者、売上への影響は8月末にはあったが、9月はあまり影響を受けなかった。しかし、生鮮食料品スーパーでは、月初に生鮮品(青果、鮮魚)ほか、商品入荷への影響があった。(以上、県内商業施設)

個人消費(流通・小売)－2

○10－12月期の売上高DI見通しは、小売業で前期比▲16.6ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲13.7ポイント、飲食店で同▲8.3ポイントとなった。

○同じく販売価格DI実績は、飲食店で前期比▲8.3ポイント、小売業で同▲6.4ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲3.5ポイントとなった。



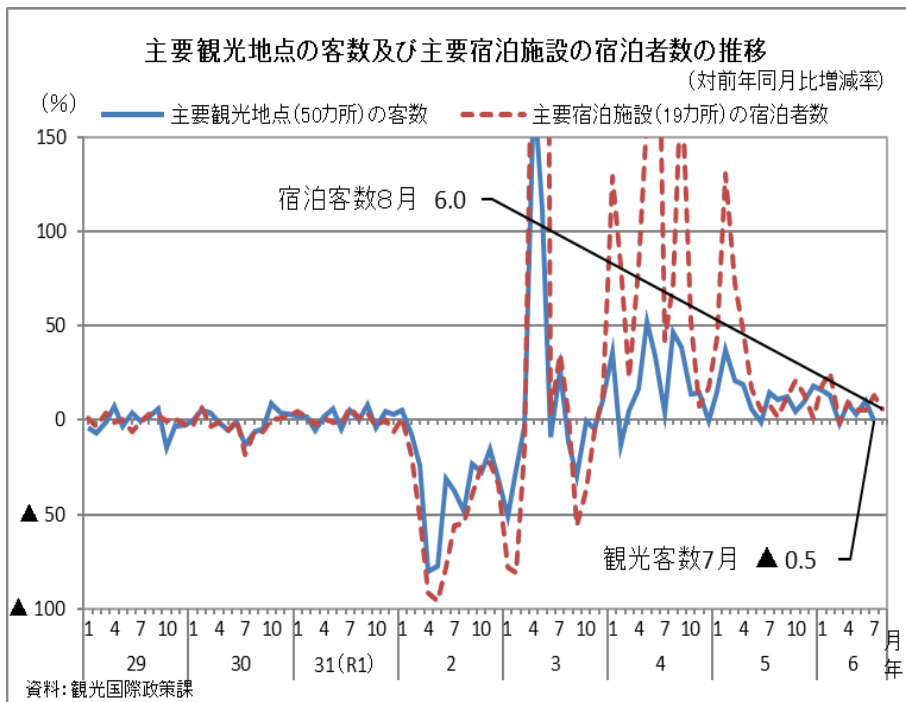
現場の動き

- ◆ 高島屋閉店後、商店街の中で数店舗が閉店した一方で、新規の出店の問い合わせもあるため、新規出店者を支援し、活性化に繋げていきたい。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 好天と暑さが続いていることが追い風となっており、土日祝日になると県外からも多くの来店があるため、売上は前年同月比120%で推移している。(大垣市商店街)
- ◆ 問屋から値上げの連絡が増えており、価格転嫁はできても商品によっては売れなくなっている。(高山市商店街)

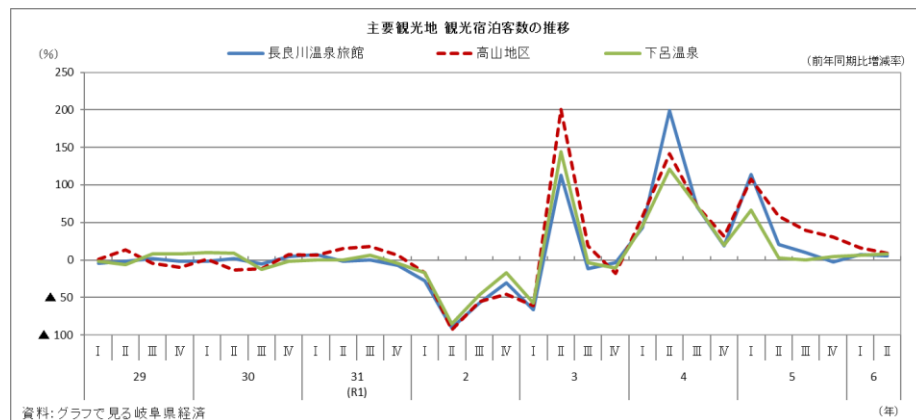
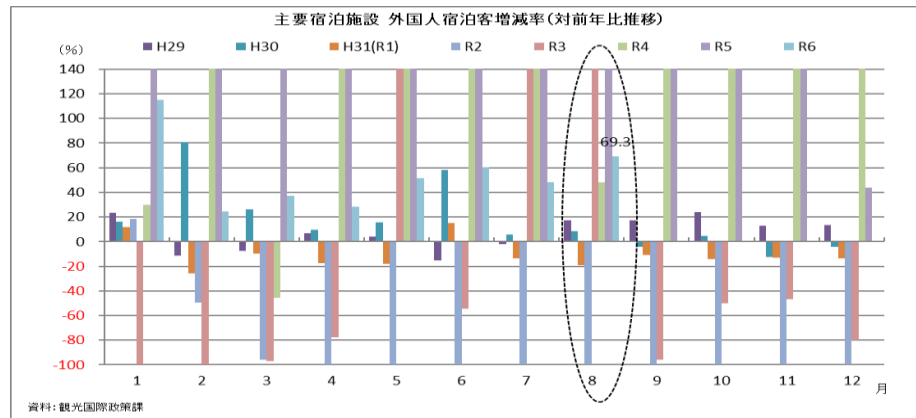
観光

○主要宿泊施設における8月の宿泊者数は、前年同月比6.0%増、令和元年同月比では、9.5%減となっている。

※主要観光地における8月の観光客数については、集計中。



○8月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、コロナ前の令和元年同月比では、22.6%増となっている。

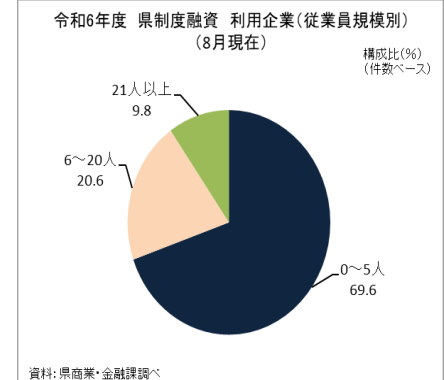
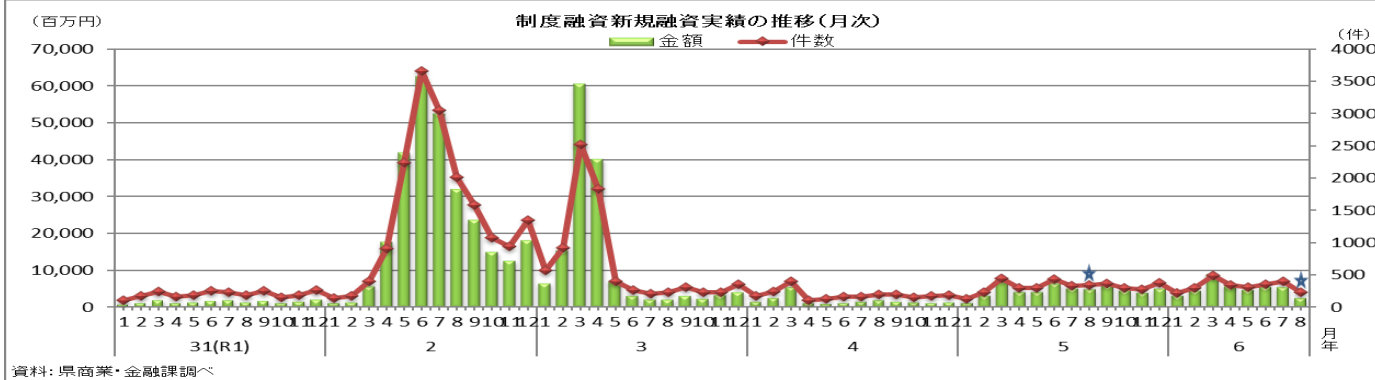
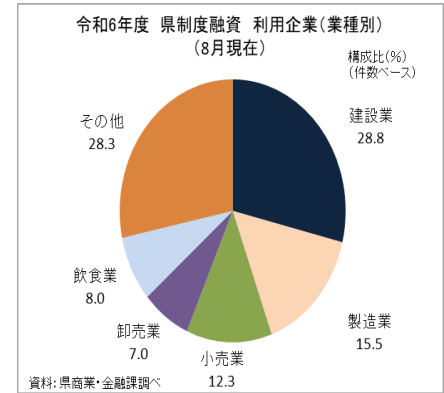
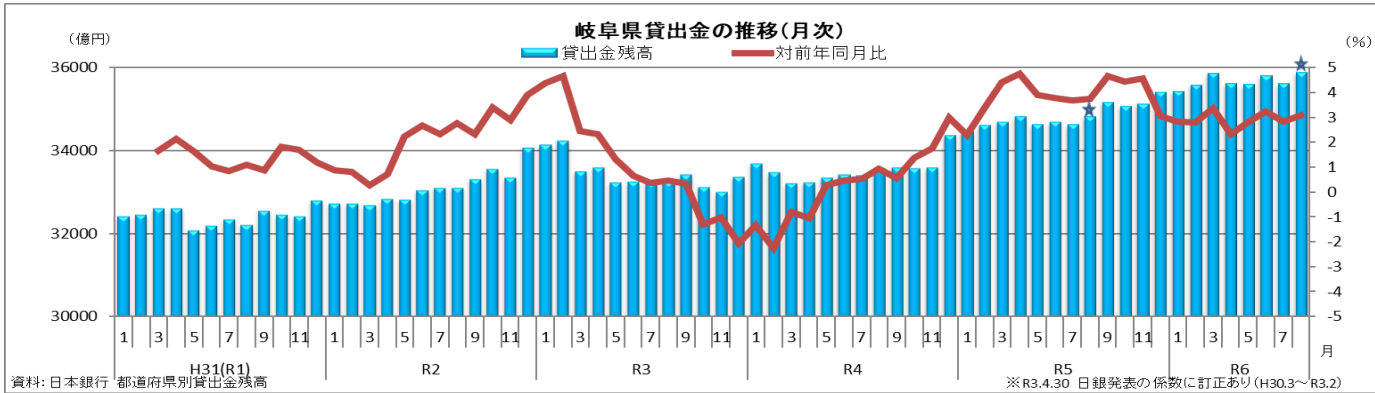


現場の動き

- ◆総文祭により学生団体の利用が増加。(大垣市、美濃加茂の宿泊施設)
- ◆台風の影響によりキャンセルがあった。(岐阜市、高山市の宿泊施設)
- ◆原材料やエネルギーコストの高騰が続いている。(岐阜市、高山市、下呂市の宿泊施設)
- ◆人材不足が深刻化しており、日本人の人材確保が困難。(高山市、下呂市の宿泊施設)

資金繰り

- 8月の岐阜県貸出金残高は、3兆5,898億円 で前年同月比3.1%増加し、28ヶ月連続で増加。
- 8月の制度融資実績は、金額が2,680百万円で前年同月比▲46.4%、件数は229件で同▲32.6%と、金額、件数共に2ヶ月振りに減少した。
- 制度融資利用企業の従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の69.6%を占めている。



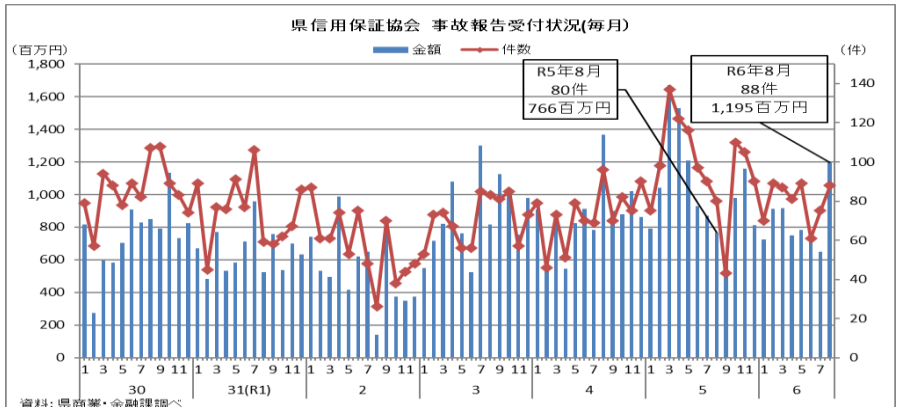
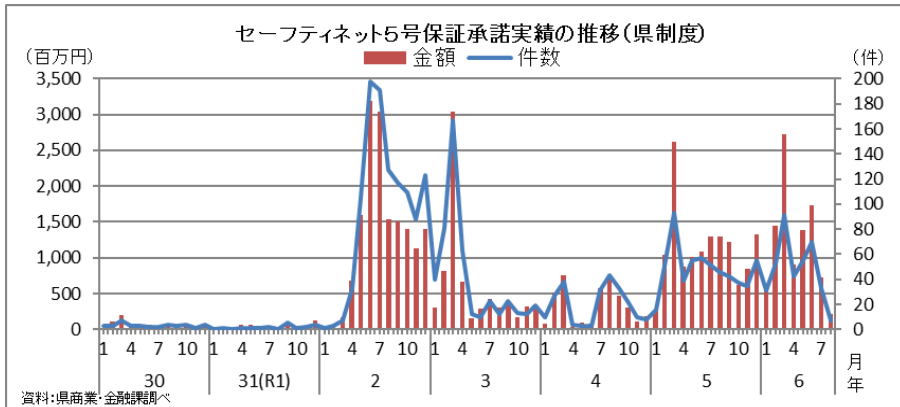
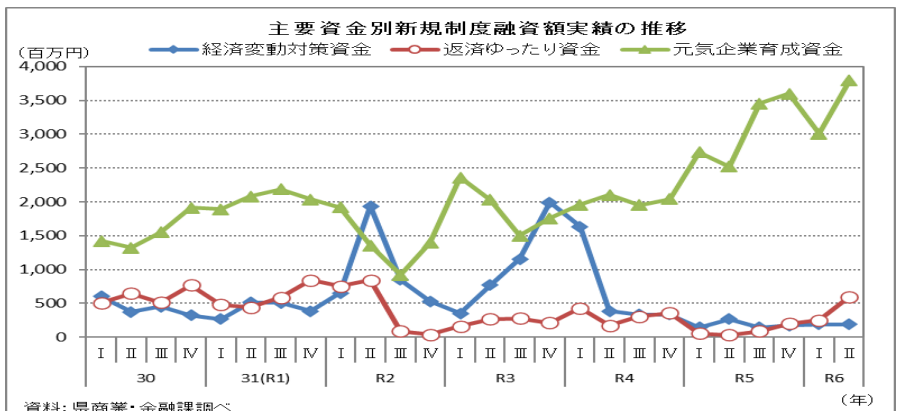
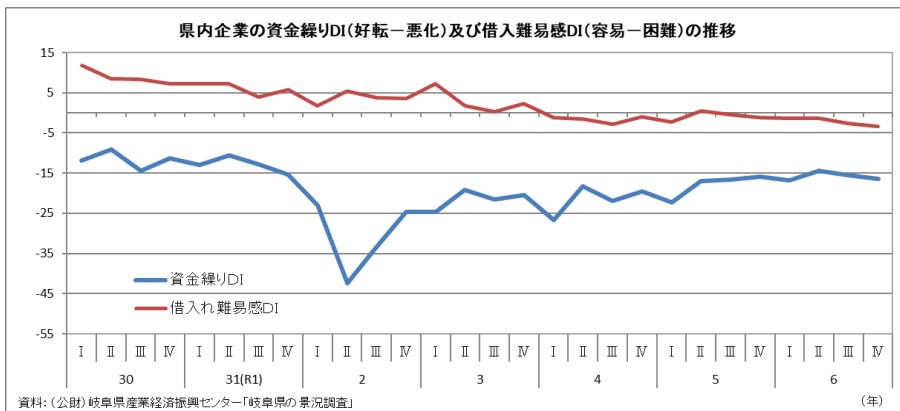
現場の動き

- ◆ 伴走支援型借換資金終了後は、特定の資金に需要が偏って流れているという状況はなく、まんべんなく様々な資金が出ている。
- ◆ 9月初旬に短期プライムレートの引上げを行ったが、現状では影響は大きく感じられない。

(以上、金融機関)

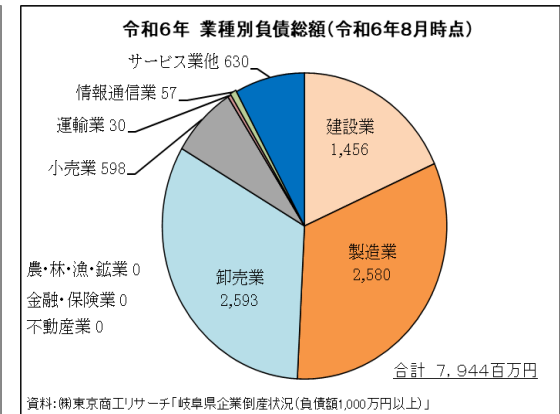
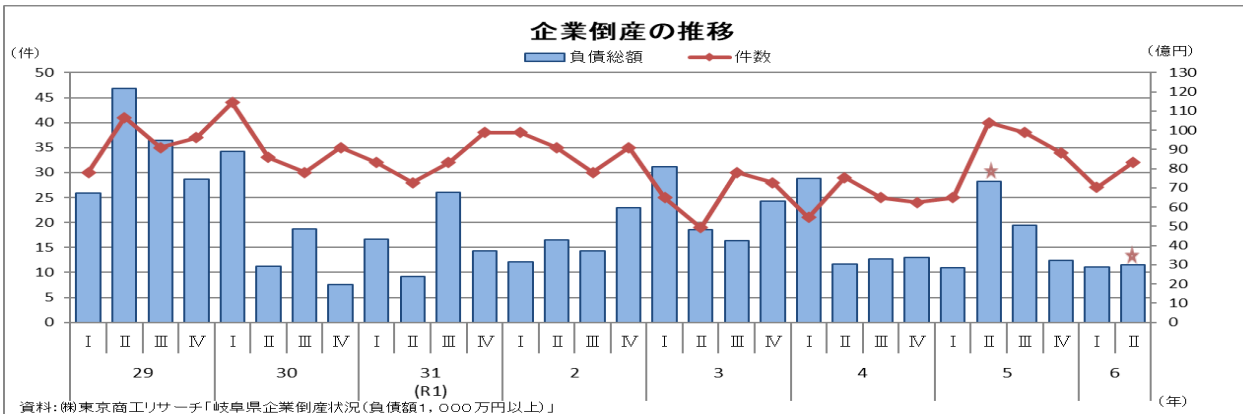
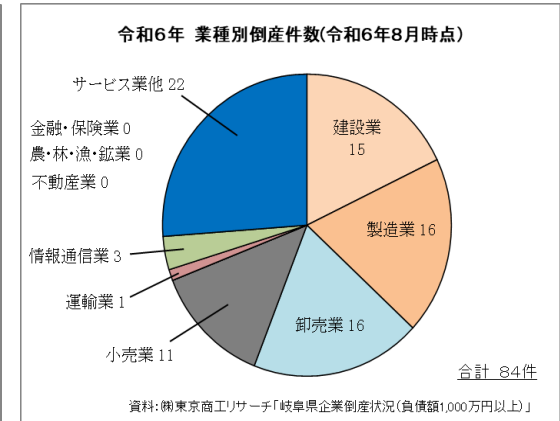
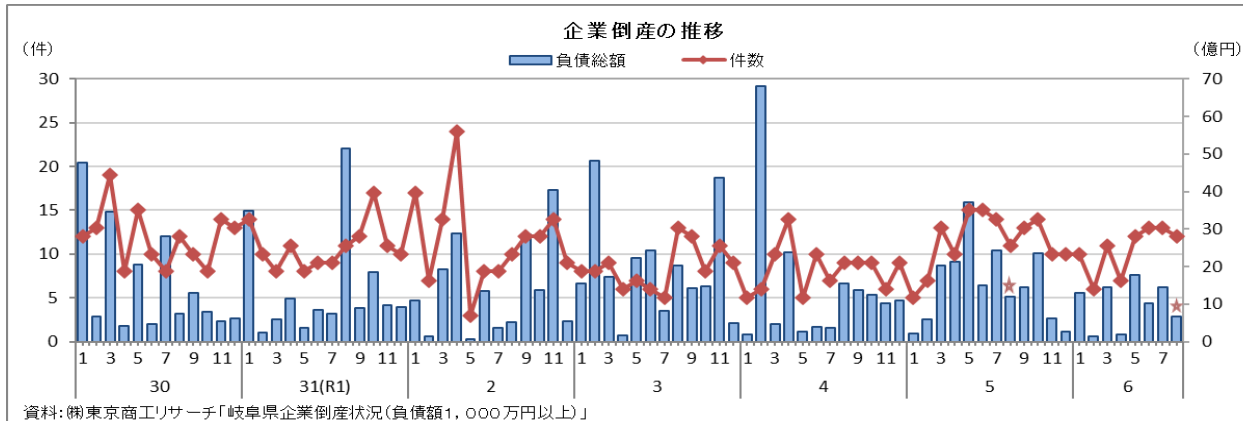
資金繰り-2

- 10-12月期の資金繰りDI見通しは▲16.4で、前期比▲0.9ポイントとなった。同借入難易感DI実績は▲3.3で、前期比▲0.6ポイントとなった。
- 4-6月期の主要資金別新規制度融資実績は、返済ゆったり資金で前年同期比1879.3%増加、元気企業育成資金で同50.3%増加と9期連続で増加した一方で、経済変動対策資金で同▲28.9%となった。
- 8月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が7件で前年同月比▲84.8%、金額は209百万円で同▲83.9%となった。
- 8月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は88件で前年同月比10.0%増加、金額は1,195百万円で同56.0%増加となった。



倒産

○8月単月の倒産件数は12件、負債総額は前月比▲768百万円の672百万円となった。
 ○令和5年7月は負債総額1億円以上の倒産は5件発生したのに対して、令和6年7月は同倒産1件となった。負債総額は前年同月比▲581百万円となった。



専門機関の分析(東京商工リサーチ・9月10日時点)

◆ 経済情勢としては、米国の利下げ、日銀の政策金利引き上げ等による日米金利差の縮小等から為替相場の円安基調は修正されつつある。しかし、物価高、人件費上昇などのコストアップ要因が顕在化している状況に大きな変化はなく、中小・零細企業の収益環境は依然として厳しい。東海地区を牽引する自動車関連産業においては、最大手であるトヨタ自動車(株)の認証不正による人気車種生産再開は間近であることから生産の正常化が期待されている。

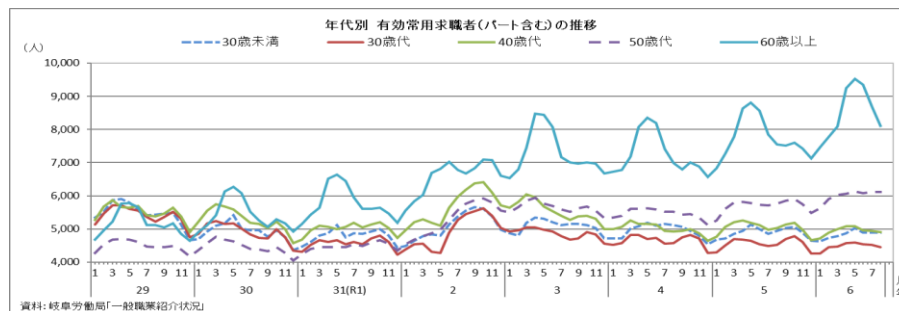
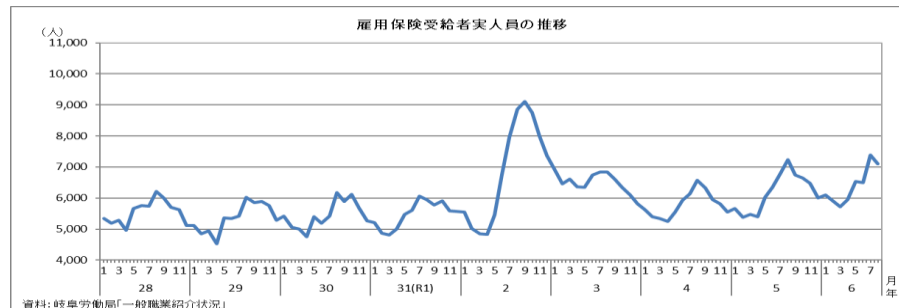
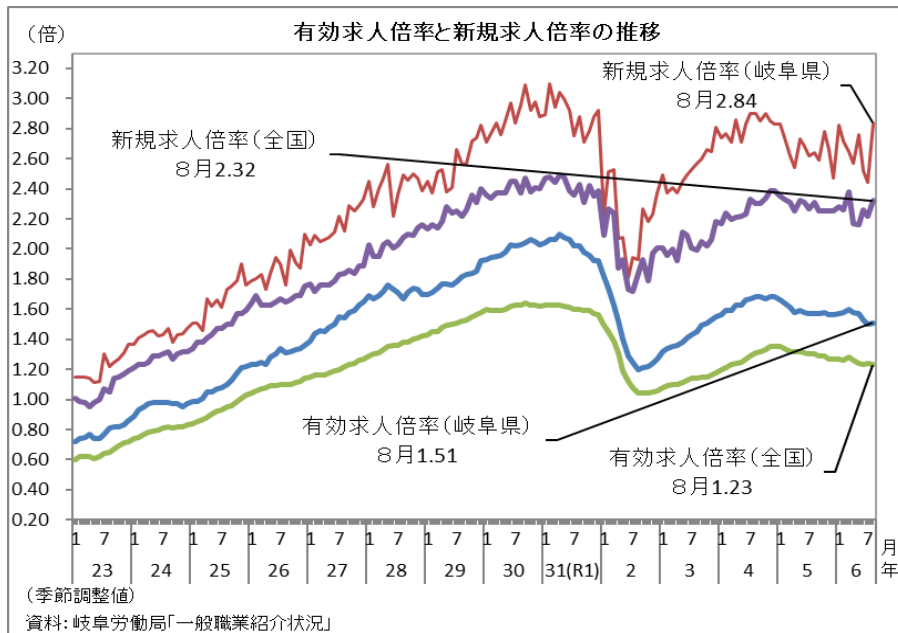
雇用

○8月の有効求人倍率は1.51倍と、前月比0.01ポイント上昇となった。

○8月の新規求人倍率は2.84倍と、前月比0.40ポイント上昇となった。

○8月の雇用保険受給者人員は、前月比▲3.8%となった。

○有効常用求職者は、50歳代以上で、前年同月比で上昇した。



現場の動き

- ◆ 現在、女性社員の比率は1割程度であり、そのほとんどが事務系の職に従事している。人数は昔と比べて変わっていないが管理職の割合は増えている。(輸送用機械)
- ◆ 来期は大卒内定者のみで、高卒内定者は0人。来期からは、高校からの要請があった場合を除き高卒採用は行わず、大卒採用のみとする。(輸送用機械)
- ◆ 10月の最低賃金引上げに伴い館内でも引き上げる店舗が散見されるものの、他路面店含む小売店との競争状況次第では人員不足悪化の可能性もある。(県内商業施設)
- ◆ 人材は不足しているが、今の受注量では人手が余っている。高度人材の育成を目指し、リスキリングを行いたい気持ちはあるが、手が回っていない。(窯業・土石)

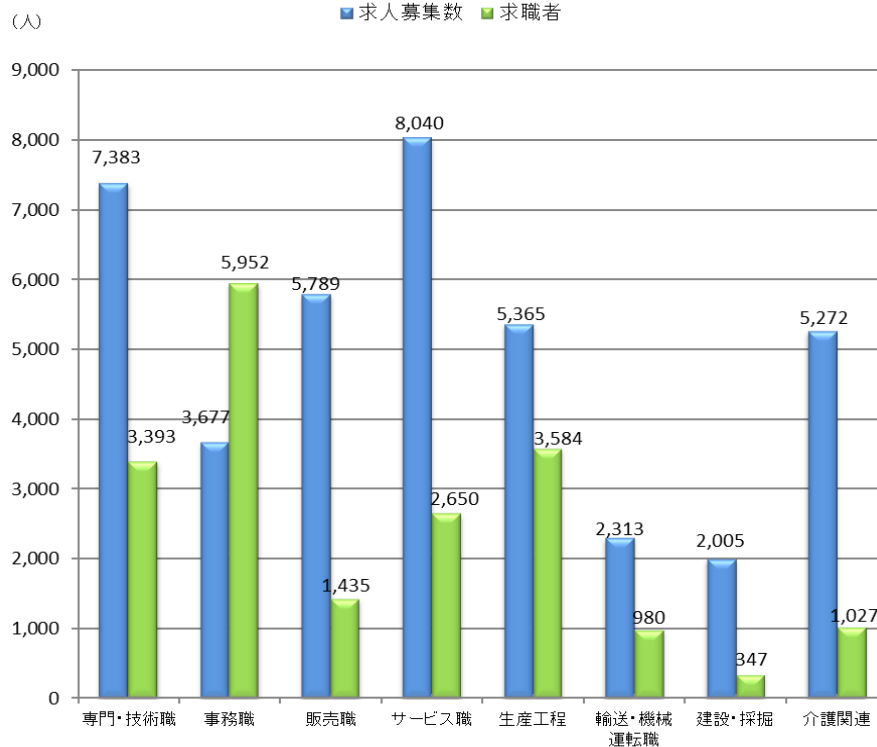
雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で5.78倍、介護関連で5.13倍、販売職で4.03倍、サービス職で3.03倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.62倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

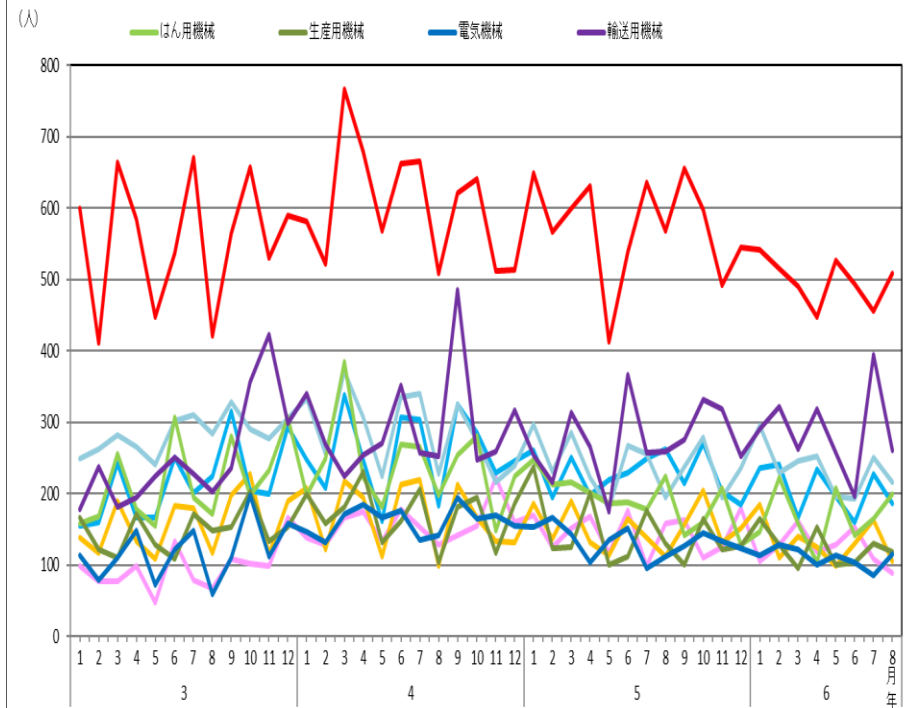
○8月の主要産業別の新規求人数は、金属製品で前年同月比11.3%、電気機械で同2.7%、輸送用機械で同0.8%増加した一方で、繊維工業で同▲43.7%、窯業・土石で同▲28.9%、はん用で▲11.6%、食料品で▲10.4%、生産用機械で同▲9.2%、プラスチック製品で同▲6.3%となった。

8月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用的フルタイム)



資料: 岐阜労働局「求人・求職バランスシート」

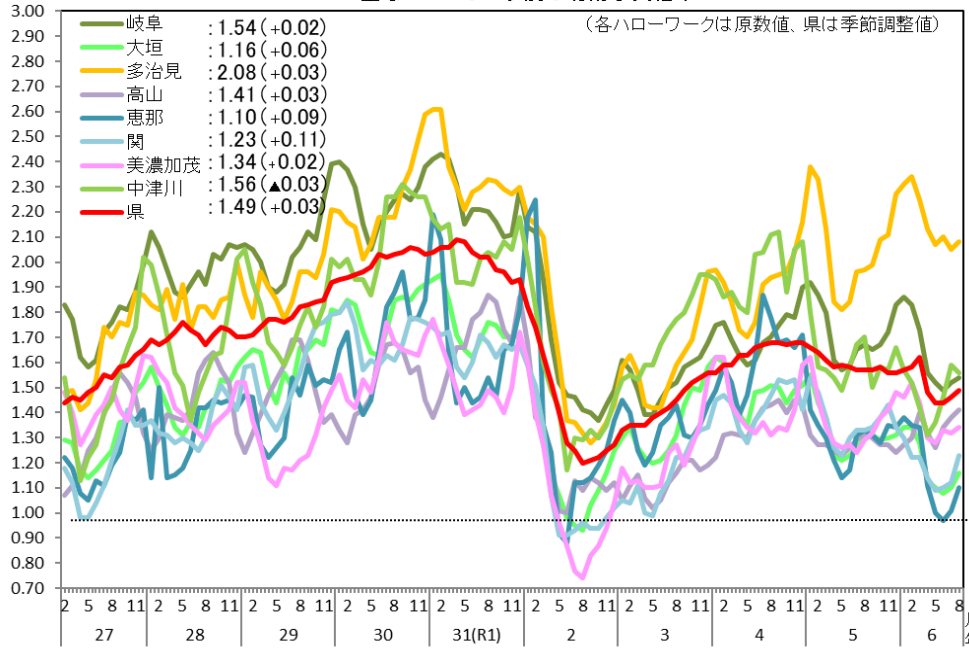
主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

雇用(地域別)

主なハローワーク別の有効求人倍率



注1: 大垣所分は揖斐出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

〇8月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、岐阜、大垣、多治見、高山、恵那、関及び美濃加茂で前月比で増加となった。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<窓口の様子>※前月比

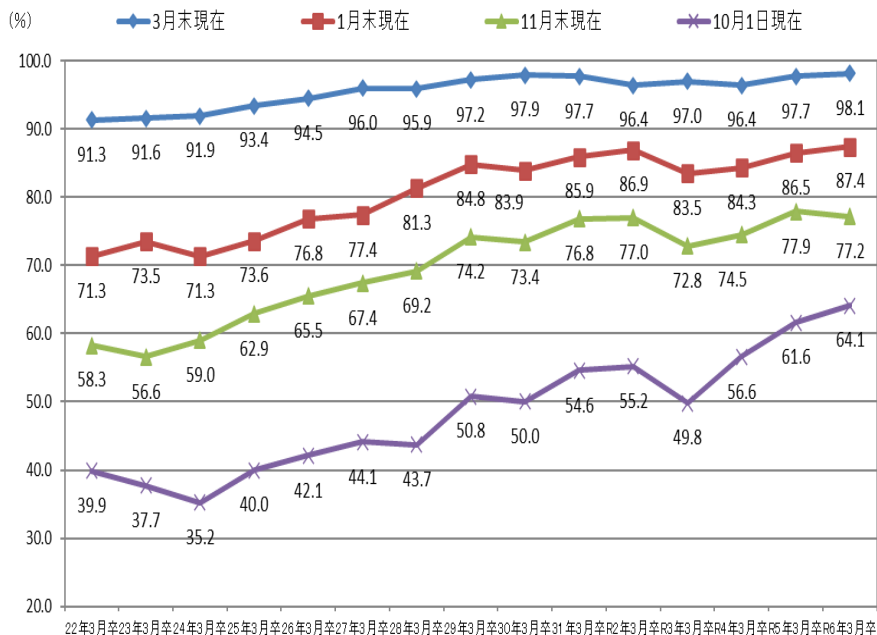
- ◆高山、恵那、関、美濃加茂、中津川で混雑している、大垣、多治見でやや混雑している、岐阜でやや空いている状況。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和6年3月末現在の大学・短大卒業者(令和6年3月卒業)の就職内定率は、98.1%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇となった。

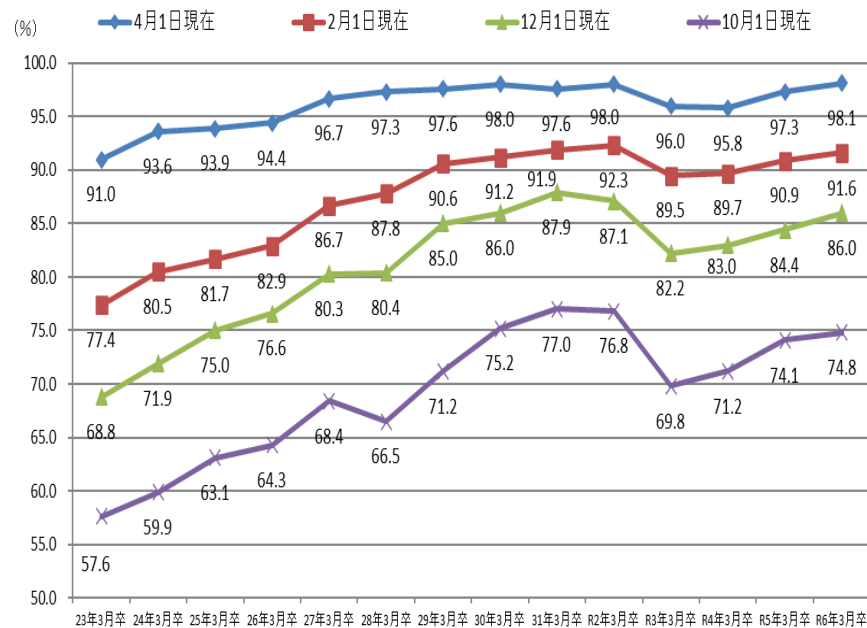
○全国の令和6年4月1日現在の大学卒業者(令和6年3月卒業)内定率は98.1%であり、前年同時点と比べ0.8ポイント上昇した。

新規卒業者(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料:岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料:厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(2025卒、2026卒の動きなど)

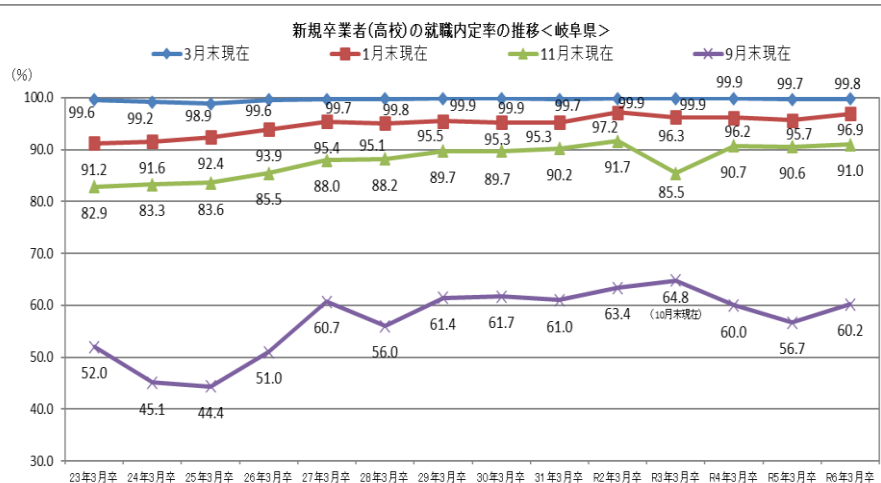
<大学へのヒアリング>

- ◆ 25年卒からの相談は大学院進学希望から就職希望への変更や、公務員試験、公務員からの民間への変更関連の相談が増えている。
- ◆ 26年卒からの相談は増えてきている。早い企業では10月選考開始がある様子であり、早期選考対策への相談も出てきている。
(以上、岐阜・愛知県内大学)

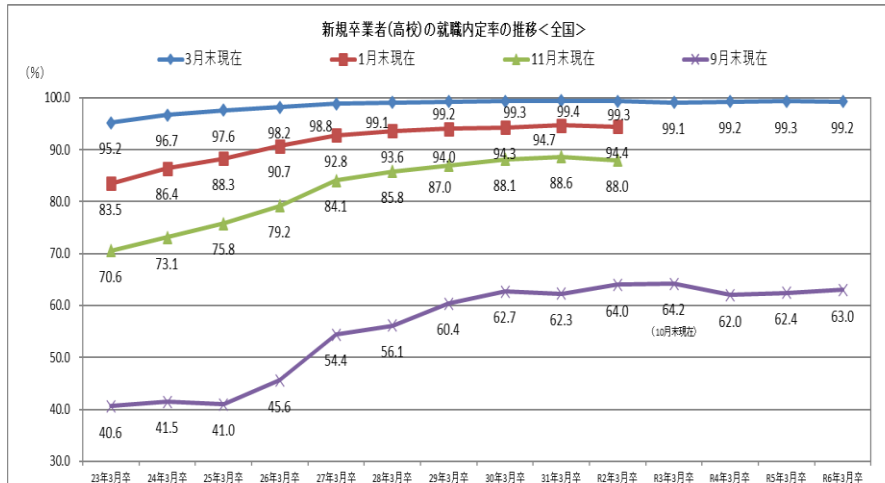
雇 用(高校新卒者の就職)

○岐阜県の令和6年3月末現在の高校卒業者(令和6年3月卒業)の就職内定率は99.8%であり、前年同時点と比べ0.1ポイント上昇した。

○全国の令和6年3月末時点の高校卒業者(令和6年3月卒業)の就職内定率は99.2%であり、前年同時点と比べ▲0.1ポイントとなった。

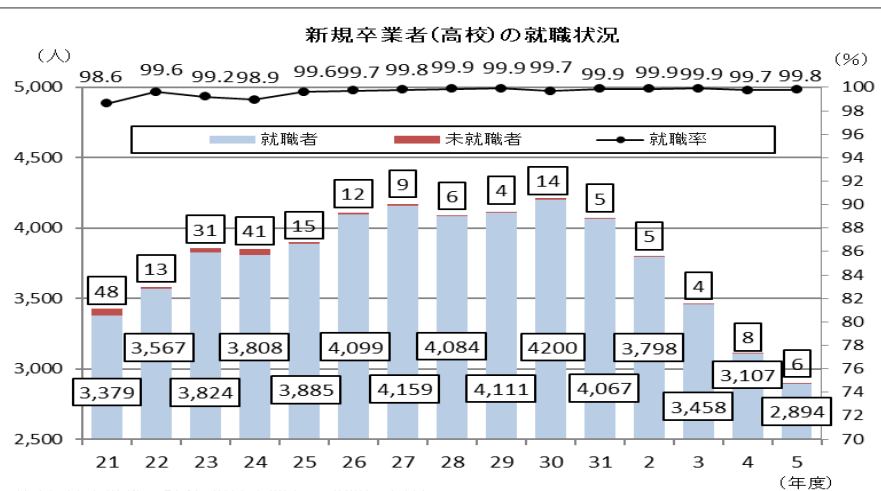


資料:岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

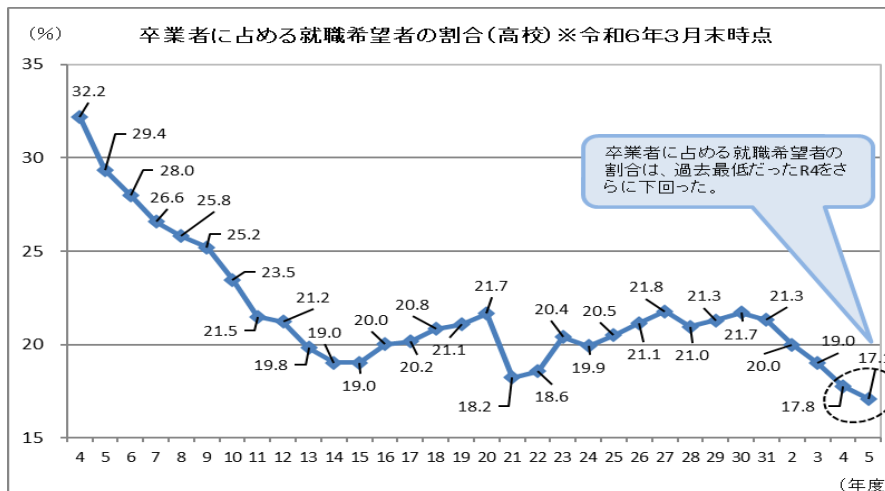


資料:厚生労働省「高校・中学新卒者の求人・求職・内定状況等」

※R3年3月卒から「11月末」及び「1月末」は集計していない。



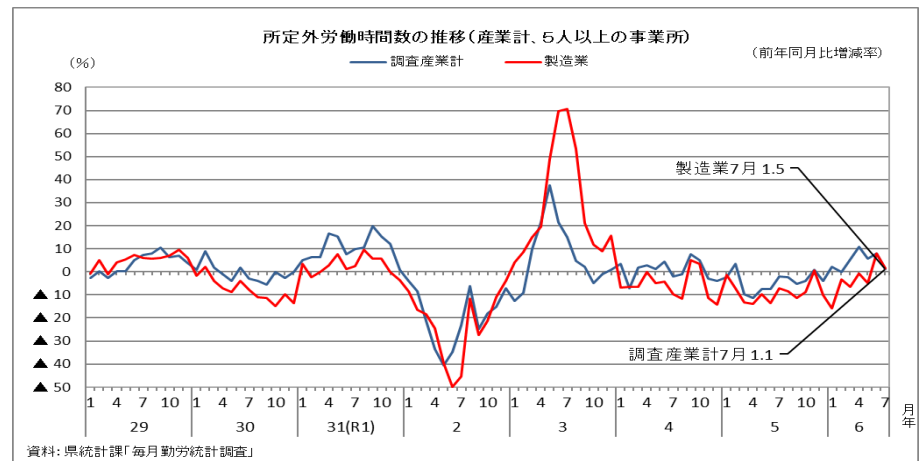
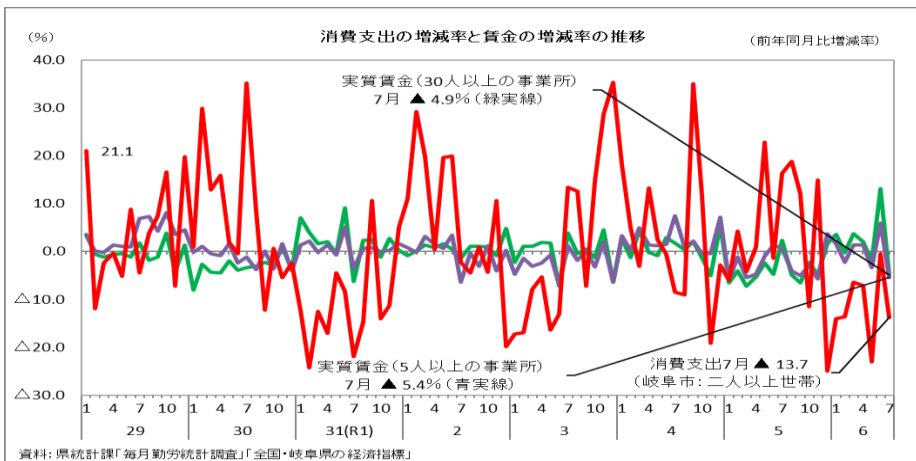
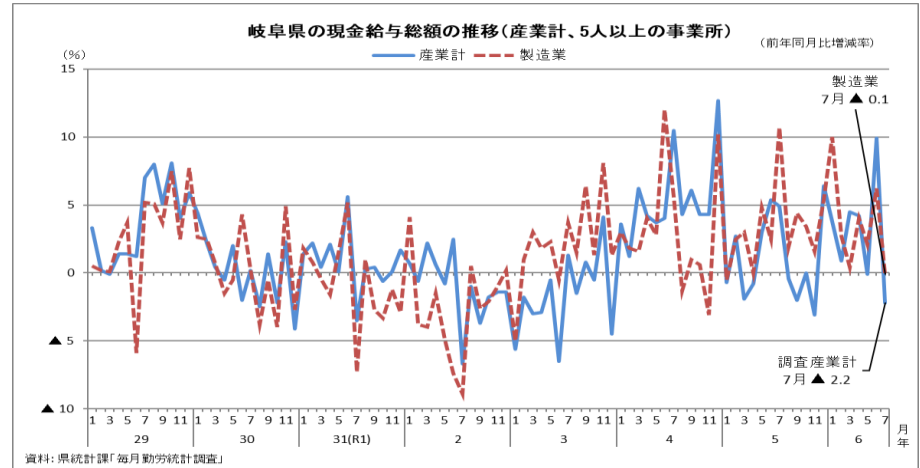
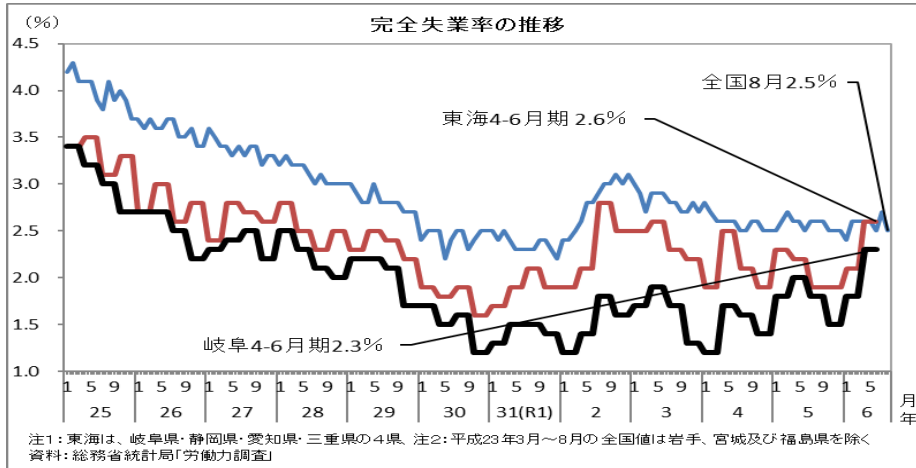
資料:岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」



資料:岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

雇 用(完全失業率等)

- 全国の8月の完全失業率は2.5%で前月比▲0.2%となった。岐阜県の4-6月期の平均は2.3%で前期比0.5ポイント上昇となった。
- 7月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲2.2%、製造業で同▲0.1%となった。
- 7月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所で前年同月比▲4.9%、5人以上で同▲5.4%となった。7月の消費支出については同▲13.7%となった。
- 7月の所定外労働時間数は前年同月比1.1%上昇となった。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、7月の鉱工業生産指数は1.5%上昇となった。ヒアリングでは、8月末に発生した台風10号の影響もあり、売上は減少したが、利益率の高い部品を生産・出荷することができたため、利益は増加したとの声や、円高になっても、エネルギーや原料は高止まりの状況、利益は8月が40%減、9月以降も30%程度の減少を見込んでおり突破口が見つからないとの声が聞かれた。
- 地場産業は、7月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、繊維、パルプ・紙、家具で下降した。ヒアリングでは、不況や物価高による購入意欲の低下を背景に、高価格商品の売れ行きが厳しく、利益面でも赤字が続いているとの声や、物価高、人件費高騰による値上げについて、一部の取引先から理解が得られないことから、採算が悪化し、売上、利益ともに昨年比で減少しているとの声が聞かれた。
- 設備投資は、8月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲3.5%となった。ヒアリングでは、製造の合理化(オートメーション化)を目指した設備投資を計画し、準備を進めているとの声や、搬出入作業の自動化等は既存設備の改造で対応するとの声が聞かれた。
- 個人消費は、8月の販売額は、全体で前年同月比4.2%上昇となった。ヒアリングでは、来館者数が前年同月比で減少したものの、全館売上では増加したとの声や、台風10号により、来館者、売上への影響は8月末にはあったが、9月はあまり影響を受けなかった。しかし、月初に生鮮品(青果、鮮魚)ほか、商品入荷への影響があったとの声が聞かれた。
- 観光は、宿泊者数はインバウンド客の増加等により、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。
- 企業の資金繰りは、8月の制度融資実績は、金額で2ヶ月ぶりに減少となった。伴走支援型借換資金終了後は、特定の資金に需要が偏って流れているという状況はなく、まんべんなく様々な資金が出ているとの声が聞かれた。
- 雇用面は、8月の有効求人倍率は1.51倍と35ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、従業員の人数は昔と比べて変わっていないが女性管理職の割合は増えているとの声が聞かれた。一方で、高校からの要請があった場合を除き高卒採用は行わないとの声や、人材は不足しているが、今の受注量では人手が余っており、高度人材の育成を目指し、リスキリングを行いたい気持ちはあるが、手が回っていないとの声も聞かれた。